

2020 年度

全日本大会担当審判員

候補者研修会



公益財団法人日本ハンドボール協会
競技・審判本部

＜日本協会 HP 競技・審判本部「競技規則」に関するページ＞



<http://www.handball.or.jp/rule/index.html>

競技規則、問題集、最新の通達を掲載中！

※ 「競技規則」「競技・審判本部」の2種類のページがあります

＜競技・審判ハンドブック 2019 – 2020＞



http://www.handball.or.jp/rule/doc/referee_handbook2019.pdf

レフェリーとして必要なことは何か…

IHFが求めるモダンハンドボールに関する通達… 等を

まとめた一冊です (※ 2019年8月時点での最新情報)

レフェリーのみならず指導者の方も必見です！

★ 競技・審判本部では、公式 YouTube チャンネルを開設しています！



https://www.youtube.com/channel/UCrA_UtDr4_sk6Mykclpkt_w/videos

年度ごとの「審判員の目標」に関する補助資料や、IHFが求めるモダンハンドボール（スピーディーなゲーム展開）に関するレフェリーの判定基準等を、映像で提供しています。

※ 解説等の資料は、日本協会 HP 「競技・審判本部」 ページに掲載しています

研修資料



資料
番号

【ページ】

1	2020年度 審判員の目標	3
2	審判員の心得 10箇条	4
3	2020年度 審判員の目標 研究課題（プレゼン資料）	8
4	レフェリーに求める基本的事項（プレゼン資料）	12
5	各級公認審判員の目標	19
6	A級公認審判員の目標	21
7	B級公認審判員の目標	24
8	B級公認審判員の目標 チェックリスト	26
9	競技規則運用に関するガイドライン	27
10	A・B級審査会の評価の要点について 2020	32
11	審判員の倫理綱領	33
12	レフェリー評価票（2020 審査会用）	34
13	レフェリー評価票の記入について	36
14	レフェリー評価における着眼点 2020 改訂版	39
15	テーマ別グループ討議 MEMO	40
参考1	通信機器の活用（プレゼン資料）	42
参考2	リオデジャネイロオリンピックゲームの総括	44
	MEMO	48

【2020 年度 審判員の目標】

(公財) 日本ハンドボール協会 審判委員会
指導委員会

1 『審判員の心得 10箇条』

- | | |
|-------------|------------|
| ① リーダーシップ | ⑥ 身体上の適正 |
| ② 誠実さ | ⑦ ユーモアのセンス |
| ③ ルールに関する知識 | ⑧ 勇気 |
| ④ 冷静さ | ⑨ 協調性 |
| ⑤ 正しい判断 | ⑩ 仲間意識 |

2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

ハードプレーとラフプレーの見極め（競技規則 8:1 ~ 8:3）

競技規則第8条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用する。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係（先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか）と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの影響を正しく見極めなければならない。

- ① 防御側プレーヤーが、不利な位置（横や後ろからボールを対象とせず）から攻撃側のプレーヤーに接触を試みたならば、競技規則8の2、8の3の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則8の3 (d) の「違反行為の影響」を見極める。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失っていないかどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失うことなくプレーをしたならば、スピードィーなゲーム展開となるよう、アドバンテージを適用して安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの影響を見極めて、罰則を適用するかどうかの判断をする。

＜研究課題＞

- ◆ モダンハンドボールの適用については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて検討する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、試合を管理する。
- ◆ コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ (Body Language) の仕方。判断基準を基に判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理する。

資料2 【審判員の心得10箇条】

審判員の心得10箇条

レフェリーは、素晴らしいハンドボールを創造する陰の演出者でなければならない

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

① リーダーシップ Leadership



レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者でなければならない。

「無駄な中断をさせない」⇒ モダンハンドボール
「ボディーランゲージ」を用いて、チーム・監督に基準等を明確に伝える努力を。

そのためには、指揮者として選手にどのようなゲームをさせたいかというハンドボール感あるいはハンドボール理念を持たなければならない。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② 誠実さ Honesty

レフェリーは誠実でなければならない。
勝敗の行方がどうであっても最善を尽くし、
ひとつひとつを丁寧に、
特に初心者のプレイほど
丁寧に吹笛する必要がある。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

③ ルールに関する知識 Knowledge of the Rule

ルールを熟知していること、さらにその根底にある意図・思想を理解する。

反則された者が不利に、反則した者が有利になつてはならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

④ 冷静さ Firmness



感情的になるな！！

レフェリーは瞬間、瞬間に適切な判断をし、
穏やかに振る舞う必要がある。
そのためには、自分の信念で堂々と判定し
なければならない。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ 正しい判断 Good judgment

よく観察し、はっきり確認したのだけを、
判定する。

決して予測で吹笛してはならない。

アドバンテージルールがあるので、
見えた全てを判定するのではなく、
プレイが発展するかどうかを
見極めなければならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑥ 身体上の適正 Good fitness

素晴らしい笛（タイミング、判定基準）は、良い位置に素早く移動して、適切に判定することから生まれる。

「We must run, too」と IHFレフェリーも言っている。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑦ ユーモアのセンス Sense of humor

ユーモアはなくて困るものではないが、もしも、選手を罰するとき微笑を持ったなら、あなたの温かい心が相手に伝わるはずである。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑧ 勇気 Courage

監督・選手が恩師や先輩であっても、ルールはルール。
たとえ罰則であっても勇気を持って公平に判定しなければならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑨ 協調性 Cooperation



競技場には二人のレフェリーペアがいることを、常に意識しなければならない。
また二人しかいないことも忘れてはならない。
そのため、二人で力を合わせ、協調しながらゲームを運営しなければならない。
チーム・競技役員・補助役員との連携を！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑩ 仲間意識 Fellowship

協調性とほぼ同じであるが、お互いを褒め称えることも忘れずに。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

一戦一戦・一瞬一瞬
を
真剣に対処すべし

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2018年度コーチレフェリーシンポジウム 審判員の心得（@熊本）

～ レフェリーは素晴らしいハンドボールを創造する陰の演出者でなければならない～

（公財）日本ハンドボール協会理事

競技・審判委員長 福島亮一

平素より審判委員会へのご理解およびご協力に感謝申し上げます。私のハンドボール人生の大半を占めた「平成」の時代も幕を閉じ、本日より新しい「令和」の時代が幕開けしました。2019熊本、2020東京を皮切りに、日本のハンドボール界がさらなる飛躍、発展の時代になるよう、精一杯つとめさせていただきます。

以下に、本年度の審判員目標「審判員の心得10箇条」を提示します。ハンドボールに携わる立場として大切にしていきたい内容です。審判員への指導内容としてご一読いただければ幸いです。

今後とも、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

① リーダーシップ (Leadership)

レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者でなければならない。モダンハンドボールの考え方を踏まえ、カテゴリーに応じて、必要な笛は吹きながらも、無駄な中断をさせず、試合をスマーズに進めていくことが求められる。また、「ボディーランゲージ」を用いて、チーム・監督に基準等を明確に伝える努力を怠らないこと。そのためには、指揮者として選手にどのようなゲームをさせたいかというハンドボール感あるいはハンドボール理念を持たなければならない。

② 誠実さ (Honesty)

レフェリーは誠実でなければならない。勝敗の行方がどうであっても最善を尽くし、ひとつひとつを丁寧に、特に初心者のプレイほど丁寧に吹笛する必要がある。

③ ルールに関する知識 (Knowledge of the Rule)

ルールを熟知していること、さらにその根底にある意図・思想を理解すること。特にルールが変更した際には、その変更の根拠を的確に把握すること。スポーツの考え方として反則された者が不利に、反則した者が有利になってはならない。

④ 冷静さ (Firmness)

レフェリーは感情的になってはならない。レフェリーは瞬間、瞬間に冷静で適切な判断をし、**穩やかに振る舞う**必要がある。常にゲームの流れ、雰囲気を感じながら、信念を持ち、毅然と判定しなければならない。

⑤ 正しい判断 (Good Judgement)

よく観察し、はっきり確認したものだけを判定する。決して予測で吹笛してはならない。アドバンテージルールがあるので、見えた全てを判定するのではなく、プレイが発展するかどうかを見極めなければならない。発展性がないプレイに関して、カテゴリーによっては早めに笛を吹くことも大切となる。

⑥ 身体上の適正 (Good Fitness)

素晴らしい笛（タイミング、判定基準）は、良い位置に素早く移動して、適切に判定することから生まれる。「We must run, too」と IHF レフェリーも言っている。日々のトレーニングを怠ってはならない。

⑦ ユーモアのセンス (Sense of Humor)

ユーモアはなくて困るものではないが、もしも、選手を罰するとき微笑を持ったなら、あなたの温かい心（ともに試合を作り出そうとする人間性）が相手に伝わるはずである。

⑧ 勇気 (Courage)

監督・選手が恩師や先輩であっても、ルールはルール。たとえ罰則であっても勇気を持って公平、的確に判定しなければならない。

⑨ 協調性 (Cooperation)

競技場には二人のレフェリーペアがいることを常に意識しなければならない。また二人しかいないことも忘れてはならない。そのため、二人で力を合わせ、協調しながらゲームを運営しなければならない。チーム・競技役員・補助役員からの協力がないとゲームを運営できないことを心得ておくこと。

⑩ 仲間意識 (Fellowship)

協調性とほぼ同じであるが、ハンドボールを支える様々の方々の存在に気づき、その存在を認めること。そしてゲームや大会が終了した後、お互いを褒め称えることも忘れずに。

(公財) 日本ハンドボール協会指導委員会

公式 YouTube チャンネル内 <https://www.youtube.com/watch?v=HGXgn1k5Tzw>

公益財団法人 日本ハンドボール協会（編）

～機関誌 通巻 591 号 令和元年 5 月号より～

資料3 【2020年度 審判員の目標 研究課題】プレゼン資料

2020年度 審判員の目標

研究課題について

～モダンハンドボールの考え方から～



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2019年度の目標として
モダンハンドボール

2018年度（上半期）の総括



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

今後に向けて
審判員の判定（判断）基準の統一のために

- 映像を用いて視覚的に理解を深めていく。
- 伝達手段としての講習会・研修会の在り方を検討する。YouTube等を活用し、浸透を図る。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2019年度
審判員の判定（判断）基準の統一のために

- YouTube等を活用し、日本協会HPにアップすることで、いつでも、どこでも見ることができるようになした。
- 大会前（日本選手権・JHL）にレフェリーに映像資料を送付して基準の共通理解を図った。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2019年度
コーチ・プレーヤーへの理解のために

- 試合中に審判員がコーチ・プレーヤーと積極的にコミュニケーションをとる場面が増えた。
- 大会前（日本選手権・JHL）に参加チームに映像資料を送付して基準の共通理解を図った。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

今後に向けて
スピーディーなゲーム展開の追求

- スピードハンドボールを表現するために安易に試合を中断しない。
-モップ、ボールチェンジ、
負傷したプレーヤーへの対応など



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2019年度
スピーディーなゲーム展開の追求

- スピードハンドボールを表現するために安易に試合を中断しない。
-モップ、ボールチェンジ、
負傷したプレーヤーへの対応など
-意識する審判員が増えた。
更に浸透を図りたい。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2020年度 審判員の目標

研究課題について

～モダンハンドボールの考え方から～



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題



◆ モダンハンドボールの適用については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて検討

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題



◆ モダンハンドボールの適用については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて検討

接触（違反）の影響の見極め…ボディーコントロール
得点の後やGKスローとなった際、あるいは前半終了間際からのイエローカード×
チームで3枚のイエローカード など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題



◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、試合を管理する。

ゲームの流れを優先し、笛の数を減らす。ゲームを止めない。
怪我をしたプレーヤーへの対応
ゴールキーパー不在の状況での攻撃（特にターンオーバー時）
モップのタイミングやボール交換 など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

**スピーディーなゲーム展開
負傷したプレーヤーへの対応**



負傷したプレーヤーがいる
1st Ref. 『助けが必要ですか』
2nd Player 『はい』 → 『ゼスチャー15』タイムアウト
『いいえ』 → 様子を見る
（答えない） でも、立ち上がらない
『ゼスチャー15』タイムアウト

※『ゼスチャー15』タイムアウト ⇒ Ref. 『助けが必要ですか』

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

**スピーディーなゲーム展開
負傷したプレーヤーへの対応**



『ゼスチャー15』タイムアウト

Ref. : 必ず、最大2名のコートへの入場許可をする



負傷の原因として、相手に罰則が適用されていなければ
そのプレーヤーはベンチ下がる（3回の攻撃）

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題




◆ コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方
◆ ボディーランゲージ（Body Language）の仕方
判断基準をもとに判定の根拠を、適切に口頭で説明できるようにする。

○ コミュニケーションを積極的に行うレフェリーが増えた。
▲ 判定の根拠が不明確。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題

◆ 判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
▲ 判定の根拠が不明確。

『あそこまでは許容範囲です』
『あれだけやると激しいです』

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

① ボディーコントロール
→ シュートを打ち切ったかどうか

もしも、ボディーコントロールを失わずにプレーできているならば…

◆ ゲームの流れを重視
◆ 安易に競技を中断しない

モダンハンドボール（ハンドボールの面白さ）を表現する

7mスローの判定や罰則の適用などにより

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② プレーヤーへの影響

どの罰則を適用するかについての判断基準 (8:3)

a) 違反行為をしたプレーヤーの 位置

・・相手に対して、正面？側面？後方？

b) 違反行為が対象とした 身体の部位

・・胴体？シュートしている腕？脚？頭部？喉？首？

c) 違反行為の 激しさの程度

・・接触の強度は？相手の動きの速さは？

d) 違反行為の 影響



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



③ ボールに対するプレー

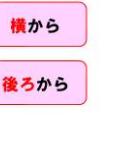
防御プレーヤーの位置と防御行為

◆ ボールを対象としていない

◆ 不利な位置から接触を試みた

⇒ ラフプレー として判定

(競技規則 8:2, 8:3)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題



- ◆ コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方
- ◆ ボディーランゲージ (Body Language) の仕方



プレーヤー、コーチ、観衆になぜそう判定したのかが伝わるように『大きく・はっきりと』判断基準をもとに判定の根拠を、適切に説明できるようにする。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ボディーランゲージ (Body Language)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題



- ◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全て** ゴールレフェリーが判定できるようにする。

ただし、ゴールエリアライン際の**ピボット**の攻防は、**ゴールレフェリーとコートレフェリー**が連携し、管理をする。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題



- ◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全て** ゴールレフェリーが判定できるようにする。

ゴールエリア付近の

フリースロー 7mスロー
オフェンシブファール など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ゴールエリアライン際の判定 ゴールレフェリーが判定できるようにする



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題



- ◆ ただし、ゴールエリアライン際の**ピボット**の攻防は、**ゴールレフェリーとコートレフェリー**が連携し、管理をする。

フリースロー 7mスロー
オフェンシブファール など

共同作業

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ゴールエリアライン際 ピボットの攻防
ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携



OF DF 共にユニフォームを握んでいる



前半25分YC★ 連携 Good sample

オフェンシブファール
OFがDFのユニフォームを握んでいる

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



©JHA / Yukihito Taguchi

資料4 【レフェリーに求める基本的事項】プレゼン資料



① 必ずしも、チームに対し3枚のイエローカードを使わなくてよい

- ◆イエローカードは管理的に使用しない
 - IHFレベルでは
 - アンダーカテゴリーでは
連盟により運用を定める
- ◆「即座に2分間退場」にしなければならない場面では、
決して使用してはならない
 - 全カテゴリーに共通する

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② 両チームで6枚のイエローカードを必ずしも必要としない(①に関連)

- ◆6枚まで必要としないゲームが多い
 - IHFレベルでは
- ◆6枚使おうとして、
試合の流れを止めてはいけない

↓

そうはいっても…前半立ち上がりでの基準作りは必要！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② 両チームで6枚のイエローカードを必ずしも必要としない(①に関連)

求められる「**予防的行動**」

- ◆ 口頭での注意
 - 競技規則書に記載されていないが…人間性
- ◆ 明確なボディーランゲージ (BL) での注意
- ◆ 笛を使っての注意

重大な違反に発展する可能性を考えて…

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② 両チームで6枚のイエローカードを必ずしも必要としない(①に関連)

求められる「**予防的行動**」

- ◆ リーダーシップ
 - レフェリーは「指揮者」
 - 無駄な中断をさせない (モダンハンドボール)
 - 明確に基準等を伝えるためにBLを用いる

レフェリーとしての「ハンドボール感 (理念)」を持つ

審判員の心得
10箇条①

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

例えば…

- DFの違反行為は
プレーの継続に影響していない
- 一回の攻撃中にVCが2回…
罰則の基準が示されていない
- 罰則を判定し基準を伝えるなら
そのタイミングも大切
- レフェリーによる最初の基準があれば
後の罰則は回避できることは…
- レフェリーが基準を示さないと
チームをはじめ皆、混乱してしまう
- コート上でリーダーシップを取り
はっきりと基準を示す

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

③ イエローカードを示す場合

- ◆カードを示すだけでは不十分
 - 繰り返させるだけとなる
- ◆「これ以上はするな」
という意味を込めて、
強い笛と明確なBLで示す

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

④ 後半でのイエローカードの使用を避ける（①に関連）

◆前半終了間際でも同様に処置する

- IHFレベルでは



◆例外の場面もある

- ・3mの距離の確保 → 前半で明確な基準を示せばよい
- ・抗議 → MO、TDとの連携
- ・脚を使ってボールを止める
→ 「即座に2分間退場」も

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

例えば・・・



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ 一連の攻撃の、異なる局面で2名の退場を判定することもできる

◆明らかに即座に2分間退場を判定できる場面では可能

速攻開始時の重大な違反 ⇒ アドバンテージ ⇒ 最終局面での重大な違反

ではあるが

一度に2名の退場者 ⇒ 重大な決断
慎重かつ冷静に対処すべきである

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

モダンハンドボールの考え方



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

① IHFシンポジウム トップコーチを交えて

◆得点の後、クイックスローオフを妨害しない

◆GKがセーブした後、速攻を妨害しない

- 軽微な違反を判定しない
- 退場以上は判定する

IHFレベルでは
スピーディーな
展開では止めない

10箇条
①③④⑤

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② 得点の後のイエローカード

審判員の心得
10箇条①⑤

◆チームがクイックスローオフに転じている状況では行わない

- IHFレベルでは

- アンダーカテゴリーでは連盟により運用を定める

◆2019年の男子世界選手権（ドイツ・デンマーク）では少なかった ➡ 3.3 YC/試合

③ GKがセーブし、すぐさま速攻に転じている際のイエローカード

◆許されない

速攻を妨害してはならない

- IHFレベルでは
- アンダーカテゴリーでは連盟により運用を定める

審判員の心得
10箇条①⑤

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

④ 1つの攻撃の、異なる局面で2枚のイエローカード

審判員の心得
10箇条①

◆許されない

- IHFレベルでは

- アンダーカテゴリーでは連盟により運用を定める

◆レフェリーは、1回目のイエローカードを示す際、「強いBL」を用いる ➡ 基準を伝え繰り返させない



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



例えば・・・



シューターはバランスを保ち
フリーの状態にもかかわらず...
YCIは基準を伝える手段の一つ
1回の攻撃中に似たような違反にYCI...?



ゴールイン後であっても
腕に対してのプレー...直接の退場



ゴールイン後であっても
空中でのブンブンは...



高速で走っているプレーヤーの
腕に対してのプレー...



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑤ 「3回目の退場によるレッドカード」と「即座にレッドカード」

◆プレーヤーの安全を保障する

◆明らかな場合は、ためらわずに判定

◆両レフェリーが寄り、協議

- レッドカードを判定するかどうか

- 通信機器があっても 競技終了30秒間は特に注意

- プレーヤー、チームを落ち着かせる意味でも



10箇条
③④⑤⑥⑧⑨

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



例えば・・・



3回目の退場...



明らかな違反に対して...



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑥ 新/旧ルール：GK不在（Empty Goal）での攻撃

◆試合がよりダイナミックに

◆退場がチームに影響しない

◆ほとんどのチームが利用

◆6対6の新しい戦術



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



位置取り 領域分担 立ち居振る舞い



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



審判員の心得
10箇条①⑥⑨

① ピボットゾーン

◆60分間、一定の基準でコントロールする
立ち上がりの基準作りは、特に大切

◆「観察している」という雰囲気が
周囲に伝わるように

◆コートレフェリーが
視線やBLで基準を示す



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



① ピボットゾーン



R 2 研究課題

◆ゴールレフェリーは通信機器で
コートレフェリーへ情報を伝える

例) 「ポストとDF、お互いに
ユニフォームをつかんでいるから
注意を入れて」 等

◆できるだけ早く判定を下す



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



① ピボットゾーン

◆攻撃側、防衛側の両者が
違反していることもある

- この場合、プレーを止めて注意を入れる

◆ゴールレフェリーとコートレフェリーが
連携し、二人で攻防を管理する



予防的行動により
これ以上の違反を
“させない”

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



例えば・・・



レフェリーによる基準(BL, ゼスチャー等)が示されないなら、DFはユニフォームを握り続ける



ゴールレフェリーが観察していればこのような行為も見逃したりはない

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② ウィングシュートの際



◆最終局面を的確に観察する

- ◆ 1st：防衛側の位置はどこであったか（ゴールエリアの内 vs 外）

審判員の心得
10箇条④⑤

- ◆ long step と、それが原因で起こる Foot on Foot
(防衛側の足の動きは)



- ◆防衛側が攻撃側に向かって接触する

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

例えば・・・



DFは大きく足を踏み出している
レフェリーは、直接の2分間を
判定する前に、まずはペアで寄つて
確認する必要がある



DFが大きく足を踏み出した足が
シューターの踏み切った足の
下に入り込んでしまっている
どちらも直接の退場(2つ目は7mT)



DFが大きく足を踏み出した足が
シューターの踏み切った足の
下に入り込んでしまっている
7mT + 直接の退場

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

③ 「違反を誘発させる行為」と 「オーバーリアクション」

審判員の心得
10箇条①④⑦

◆増加の傾向にある

◆常に「起こること」を念頭に

- ・自分からぶつかって
「オフェンシブファール」と見せかける
- ・ホールディングされた
攻撃側がその場に倒れ込む 等



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

③ 「違反を誘発させる行為」と 「オーバーリアクション」



- ◆決めつけてはならない
伝え方に「人間性」を
大げさに倒れている
ように見えているん
だけど…
- ◆位置取りや観察の視点を誤ると正しく判定できない
- ◆すぐにやめさせる
放置するとハンドボールの悪いイメージを与える
- ◆罰則を与えることも可能（ただし、明らかな場面で）

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

例えば・・・



基準の示し方の参考として…
ただし、その基準は一定に！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

④ コート上での位置取り



- ◆常にボールを巡る攻防の「間」を
観察できる位置を求める
- ◆両者の「間」は狭いか、広いか
広いスペースに走り込んだのは
どちらか

審判員の心得
10箇条①⑤⑥

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

④ コート上での位置取り

- ◆まずは防衛側プレーヤーの位置、それから接触を観察
- ◆決して固定した位置にとどまらない



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



④ コート上での位置取り

◆プレーヤーはその都度（臨機応変に）
ポジションを変える

だからレフェリーも…

◆常に正しく
観察できる位置を探す

◆誤った位置取りは、多くのミスジャッジを生む



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

④ コート上での位置取り

コートレフェリーだけでなく
ゴールレフェリーも
同じ位置に立ち続けない
(固定位置にとどまらない)

常に見える位置取りを！



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

例えば・・・



頭部への接触は、どのような状況でも
直接の退場となる

ボールを持つ手と逆の手を使い
優位な状況を作ろうとしている

時にはこのような行為も…
レフェリーは、常に接触が見える
位置取りを探さなければならぬ

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ コート上での立ち居振る舞い

審判員の心得
10箇条①②⑦

◆「リーダーシップ」「人間性」を発揮
- 「私（僕）に任せて」の姿勢
「誠実さ」
- プレーヤーへの言葉遣い
決して高圧的にならない

穏やかに



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ コート上での立ち居振る舞い

審判員の心得
10箇条④

◆常に「冷静さ」「穏やかさ」を示す

- 「7mT+退場」の判定で、
ダッシュでプレーヤーやポイントへ駆け寄らない
- FTのポイント移動も、「穏やかに」移動し示す
※ それまでの位置取りが遠くならないように
- レフェリーはボリスマンではない
(誇張してはならない)

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ コート上での立ち居振る舞い

審判員の心得
10箇条④

◆罰則の後、両レフェリーの位置を
交代することよりも、
BLを用いて明確に示すことを優先する



◆チーム役員へ罰則を適用した際は、
両レフェリーの位置を交代する等、
適当な距離を置く



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

例えば・・・



プレーヤーを飛び越える方が
残りリスクを伴う
レフェリーはあらゆる場面で
冷静に対応すべきである

判定は間違っていないが
BLが「シャイ」
レフェリーはもつとはっきりと
伝えるべきである

レフェリーは穏やかに、かつはっきりと
BLを伴う罰則の判定を行っている
が…7mTの判定を忘れている！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ コート上での立ち居振る舞い

審判員の心得
10箇条①②③

◆判定の理由を聞かれたら…

「リーダーシップ」「人間性」を発揮し
競技規則の根拠（判断基準）を基に説明

身体接触

エリア際

アドバン
テージ

パッシブ
プレー

攻防の
切り替わり

違反の誘発

オーバー
リアクション

…

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ コート上での立ち居振る舞い

◆判定の理由を聞かれたら…

「リーダーシップ」「人間性」を發揮し
競技規則の根拠（判断基準）を基に説明

- ・影響の有無
- ・ボールに対してかそうでないか
- ・スペースはあった（明らかなシュートチャンス）かどうか
- ・ボールのない所で、何を判定したのか など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ コート上での立ち居振る舞い

◆判定の理由を聞かれたら…

「リーダーシップ」「人間性」を發揮し
競技規則の根拠（判断基準）を基に説明

- ・軽微な違反はあるが、シュートチャンスを阻止した
- ・シューターは十分にボディーコントロールが取れている
- ・DFが先に、正しく位置を取っている
- ・DFは前へと動き、かつ大げさな動作で違反を誘発した

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ コート上での立ち居振る舞い

◆「リーダーシップ」「人間性」を發揮し、説明 …

次の違反をさせないための「予防的行動」にも繋がる
- 口頭で、ボディーランゲージで、笛で

ピボット
ゾーン

ウイング
ポジション

接触
(DF vs OF)

競技終了後の
フリースロー



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ コート上での立ち居振る舞い

例) 競技終了後のフリースローでの「予防的行動」

“相手をケガさせないよう気を付けてね” (OFに)
“ポイント、ここ！ 3mしっかり離れてね” (DFに)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑥ 【重要】チームのキープレーヤーを コントロール下に置く

◆攻撃や防衛の中心的（リーダー）となる存在

◆厳しいマークを受けることもある

- ここぞという所では
重要な役割を果たす存在



◆そのプレーヤーを甘やかす
という意味ではない

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑦ すべてのレフェリー（ペアではない） が、同じ判断基準で

◆60分間、大会期間中、すべての大会において

◆事前資料、映像資料から「判断基準」を
的確に押さえる

◆「自分たちのペアだけ」の特別なものはいらない

◆例えば・・・「誰と組んでも」同じ判断基準で

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

全日本大会ノミネートレフェリーとして



ハンドボールを創造する陰の演出者として
チーム・プレーヤーに、トレーニングの成果を
存分に発揮させるための準備を！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

全日本大会ノミネートレフェリーに対し

求めるもの

- ◆競技規則の理解と正しい運用
- ◆ラフプレーとスポーツマンシップに
反するプレーの排除
- ◆妥当性と信頼性のある判定
- ◆アスリートとして必要な心技体

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

我々は1つのチーム！！！



ここにいる一人ひとりが
地元に持ち帰って、見本となってほしい
後輩の良き見本となってほしい

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

最後に



“人間力なくして競技力向上なし”

～JOC選手強化本部スローガン～

人間力も含めて、アスリートの価値
ダブルゴールを目指して

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



2020年度 各級公認審判員の目標



2020. 2. 1

(公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判本部

審判員に対し JHA／連盟／ブロック／都道府県協会審判委員会が、共通の目標を持ち、一貫した指導をすることが必要である。

国内の審判員の多くは都道府県レベルの D 級審判員である。また各ブロック、全日本大会等で積極的に審判活動に関わっている者の多くは A 級および B 級審判員である。そのため、指導の方向としては審判員として、まず、国内最高峰である「A 級審判員」、および全日本大会を担当できる「B 級審判員」のそれぞれの目標を示す。 B 級・C 級・D 級審判員がその次の目標を達成することができるよう指導助言にあたることが重要になる。

審判技術の向上には以下の 4 つの要素が不可欠となる。 **※審判員の心得10箇条**

- 1) ハンドボールに携わるものとしての人間性
- 2) 競技規則の理解と正しい運用
- 3) 審判員としての技術
- 4) アスリートとして必要な体力

この 4 つの要素を各級審判員の目標の中に反映させ、指導助言にあたる。

1 A 級審判員の目標

A 級審判員の目標を「適切な位置取りと任務分担（対角線式審判法）によって、事実を正しく見極め、的確な判定で、試合を円滑に進めることを追究する」とする。

その目標を達成するために

- ① 「レフェリー評価における着眼点」についてその項目の意味を熟知し、
 - ハンドボール競技の特徴および競技規則の解釈と適用を理解した上で、行うべきこと、観察すべきことを適切に実践する。
 - 試合の流れやプレーの展開の予期・予測による実践と、審判員としての任務の遂行に努める。
- ② 瞬発力、スピード・反応性の強化を図り、持久力と的確な判断力の向上に努める。
- ③ **国内最高峰の大会である、日本リーグ・日本選手権さらには日本協会指名レフェリーとして、人間性を發揮し、よき模範として大会審判長・副審判長を補佐する。**

2 B 級審判員の目標

B 級審判員の目標を「競技規則を理解し、正しく運用することによって、試合を円滑に進めることを追究する」とする。

その目標を達成するために

- ① 競技規則試験において A 級審判合格ラインの 85 %以上の正答率
- ② B 級審判員の目標に記載されている各項目を熟知し、
 - ハンドボール競技、競技規則、審判員の役割など基本的な知識を理解する。
 - 競技規則に従って試合を運営することと、試合を運営するための基本となる技術の習得と実践。**判断基準を踏まえた説明ができるようになること。**
- ③ フィジカルに対する基本姿勢を身につける。持久力をつける。
 - 体力テスト（シャトルランテスト）で男子：77、女子：67 の基準をクリアする。
- ④ 大会運営に関わる知識を身につけ、審判長（大会、各都道府県等）、競技委員長の役割や任務を理解し協力する。

3 都道府県、ブロックにおける指導について

C 級および D 級審判員への指導指針

上記の A 級・B 級の審判員の目標に対する取り組みを踏まえ、C 級および D 級審判員には特に、

① 競技規則に従って試合を進めるための「競技規則の理解」を深めさせる。

○ 競技規則問題集を用いての座学、ビデオテスト、各種プレゼンを用いたアイトレーニングを各都道府県・ブロックにおいて積極的に実践する。

例) 競技規則問題集から基本的な問題を抜粋し、**競技規則試験において 80 %以上の正答率**

(B 級審査合格基準)。

映像資料も分かりやすいものを抜粋する。

② 競技規則に従って試合を進めるための笛の吹き方やのジェスチャーの示し方、基本走法の定着を図る。

③ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養う。

④ 試合中は失敗を恐れず、競技規則に基づいて自分が判断したように、自信をもって判定できるように助言する。

例) 7m スローが必要かどうか悩むなら判定する。

罰則が必要なら判定する（警告か即座に2分間の退場なのかの判断に悩んでも、どちらかは判定できるようにする）。

※起きた事象に反応、判定する（C 級に向かって精度を高めていく）。

⑤ 基本的な事項を教える。

例) 笛が必要な場面、CR と GR のポジションと役割分担の基本

⑥ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養うようにする。

⑦ ハンドボールに関わる人々からの情報を得て、「ハンドボール競技」に関する理解を深めるようする。

⑧ 公認審判員としての心構えを教える。

例) 服装、試合の準備の仕方など

⑨ 体力テストにおいて、B 級審判員の合格ラインである、シャトルランテスト（男子：77、女子：66）の基準をクリアする。

4 審判指導の基本として

「審判員の倫理綱領」を熟知させ、

○ ハンドボールに関わることだけでなく、一般社会における「社会道徳」や「社会規範」について知り、実践する態度を養えるようにする。またハンドボール（審判活動）を通して見聞を広げ、広い視野をもって全日本大会・国際試合で活躍できる人材となれるよう育成する。

○ 審判員としての活動によって、「審判技術の向上」を図るだけでなく、「人間性の向上」が図れるようにする。またハンドボールファミリーの一員として「仲間を尊重」し、互いを認め合うために必要なコミュニケーション力が向上するよう育成する。

○ 「教わるという姿勢」を持つことは当然であるが、「自分からチャレンジして発見し学ぶという姿勢」を持って、審判活動だけでなく、「ハンドボール」に関わっていけるようにする。また「仲間と競い合う」ことによって、他者の良い面を発見し、認めあいながら成長できるよう育成する。

資料6 【A級審判員の目標】

A級公認審判員の目標(2020年)



全日本大会の審判員を担当することができる者はA級、B級の審判員である。その中で特にA級審判員には下記の点において期待したい。

- ① 全日本大会のみならず、日本リーグおよび日本選手権へのノミネートを目標に、さらには日本協会指名レフェリーとして認められ、各種大会での模範レフェリーとして活躍する。
- ② 「審判員の心得10箇条」を熟知し、人間性を發揮し、大会審判長、副審判長を補佐して、審判団のよきリーダーとして活躍する。
- ③ 試合において立ち居振る舞いはもちろんのこと、事実を正しく見極め、適切な判断基準を基に、的確な判定を下し、TDやオフィシャル、チームとの連携をとりながら試合を円滑に進める。
- ④ ハンドボール競技の特徴を理解した上で、試合の流れやプレーの展開の予期・予測による観察と瞬時の判断力を持つ。

以下に（公財）日本ハンドボール協会競技・審判本部作成の「レフェリー評価票」を基に、A級審判員として追求したいレフェリーの姿とそのポイントを明記する。

評価項目	評価の着眼点	指導のポイント
(1) ゲーム管理	レフェリーとしての要素・全体的印象	試合に関する的確な態度であるか。 タイミングが遅れた介入でゲームを見失ってはいいのか。 <ul style="list-style-type: none"> ○競技開始前の準備 ○リーダーシップ
	振る舞い 選手・役員とのコミュニケーション	姿勢は正しいか 「穏やかに」重大な判定を下し、「明確に」チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、ボディーランゲージや口頭による説明ができるか（怒らせる・失礼である・傲慢である・親切過ぎる）。 <ul style="list-style-type: none"> ○レフェリーの人間性 ○丁寧な指示と運営 ○TD、オフィシャルとの連携 ○チーム役員、選手との関係作り
	チームとの関係・平等であるか	試合に関する感情。公平な態度であるか。 双方にバランスのとれた判定を心掛けているか。 一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。 弁解や妥協しがちではないか。 ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。 <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションのバランス ○判定のバランス ○放置しない毅然とした対応
(2) 連携	チームワーク（オフィシャルを含めて）	誰が見ても分かるように、パートナー・オフィシャルとの協力ができているか。 <ul style="list-style-type: none"> ○目に見えるコンタクトの雰囲気
	ペアで均一な判定	1人のレフェリーが支配したり、されたりしていないか。 <ul style="list-style-type: none"> ○領域分担と判定者が一致しているか
	領域分担	○ゴールエリアライン間際の責任領域はゴールレフェリーである

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し、ゲームの流れを理解しているか。 ゲームの流れに反した判定をしていないか。	○レベルに応じて運用するがルールを変えてはならない
	アドバンテージ・不必要的笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかな得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。 アドバンテージ後の罰則を与えていているか。 ルール違反のアドバンテージを与えていないか。 不要な笛でプレーを止めていないか。 発展性のないプレーの見極めと、笛のタイミングは適切か。	○3歩、3秒の保障 ○不要な笛を減らす ○発展性のないプレーの見極め ○2重のアドバンテージを与えない ○笛のタイミング
(4) 1対1の局面	罰則 8:4にある即座に2分間退場への準備	各種罰則を適用すべき判断基準を理解しているか。 許容範囲のハードプレーとアンフェアなラフプレーの区別ができるか。 第8条に一致しない罰則を与えていないか。 スポーツマンシップに反する行為の見極めは妥当か。	○即座に2分間退場とすべきプレーを適切に見極めている ○試合開始直後からの準備 ○競技終了前30秒間の集中
(5) 攻撃側の違反	チームに基準が理解されているか	罰則の有無の判断基準が適切か 罰則がよいバランスで判定されているか	○判定の後のボディーランゲージ ○プレーヤーへの基準の伝え方
	ハリウッドアクションの見極め	ハリウッドアクションを見抜き、予防的な処置を含めた、適切な処置ができているか。	○大きな声、影響と倒れ方の関係 ○心の準備
	ボールを持ったプレーヤーの違反 ボールを持たないプレーヤーの違反 正しいブロック/不正なブロック	攻撃側の違反を判定すべき判断基準を理解しているか。 違反を見逃していないか、探していないか。 正しい防御活動を認めているか。	○攻撃有利のフリースロー判定が多くないか ○ゴールレフェリーがボールばかり追っていないか ○接触・違反のスタートの見極め
(6) 7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め	適切に7mスローを与えているか。 明らかな得点チャンスの判断基準を理解しているか。	○防御側プレーヤーの位置観察ができるか
	ゴールエリア侵入と影響の見極め	明らかな得点チャンスではないものに7mスローを与えていないか。 GK不在の状況での明らかな得点チャンスの見極め。	○押し込まれてのエリア侵入を見極めているか
	ボールを所持していない明らかなチャンス		○違反がなければ明らかな得点チャンスになるプレーへの心の準備

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(7)違反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート	正しく判定しているか。 明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュートした場合は、7m スローに戻しているか。	○ステップ 2 歩+2 歩の見極め ○ステップを誘発させる防御行為の見極め
	足を使った違反		○足を使った行為について適切に処置
	各種スローの判定と適切な実施		○ポイントの指示 ○正しいスローをしたか ○防御側プレーヤーの位置 ○修正後の再開の笛
(8)時間の管理	パッシブプレーの予告合図のタイミング	適切な判断基準のもとで予告合図のタイミングは適切か。	○選手交代、各種スローの実施の遅延に伴う予告合図 ○退場者がいる場合
	パッシブプレーの判定	違反を判定するタイミング、および判断基準は適切か。	○ボールを持ったプレーヤーがゴールに向かっている状況で違反の笛を吹かない
	的確なタイムアウト・不要な中断をしない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。 与えすぎていないか。 タイミングが遅すぎていないか。	○タイムアウトを取らなければならぬ場面で適切に対処できているか ○競技時間の短縮を工夫しているか
(9)動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか	2人の死角はないか。 攻撃側と防御側の「間」を観察しようとしているか。 プレーヤー・ボールから目を離してはいないか。 サイドチェンジのタイミングは適切か。	○防御形態に応じた領域分担が臨機応変 ○レフェリーの基本走法
	明確なジェスチャー・笛の音	判断基準を適切に説明できる明確なボディーランゲージを用いているか。 最初に方向指示をしているか。 笛の音は適切か（強弱、長短、軟硬の使い分け）。	○罰則、7m スロー判定の後 ○笛の音色で判定の種類がわかる
	体力・走力	レフェリングをするにあたり、十分な体力を有しているか。	○コート上でのウォーミングアップ ○後半でも走力が維持できる

B級公認審判員の目標



B級審判員より全日本大会への参加資格が与えられる。国内のトップチームの試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を習得することが必須である。

以下にB級審判員が習得すべき事項について記載する。コート上で1人のレフェリーが主導権を握るレフェリーシステムは、ハンドボール競技には適さない。パートナーと常に連携と相互理解を図り、両レフェリーは様々な状況に関する考え方が一致していなければならない。レフェリーの任務も正しく分担されなければならない。

<試合前>

- 1) トスには指定された時間に両レフェリー、TDが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確實に行う。また、公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 2) ユニホームの確認は、必ずTDと協力し行う。判別し難いものは着用させない。レフェリーウエアも判別し難い色は着用しない。相手コートプレーヤーの色とチーム役員の色とが重複しないように呼びかける。また、プレーヤーの装具についても規定にあってはいるかどうか、TDと協力し、観察しておく。
- 3) ゴールやゴールネット、ボールなどの点検は前もって(選手紹介や選手の確認の前)行い、競技開始直前に行わない。
- 4) オフィシャル席の仕事を理解し、シンプルかつ分かりやすく各種の合図をする。試合開始前に必ずオフィシャル席と業務の確認、および機器の操作の確認を行うこと。

<試合開始時>

- 5) 競技の開始時刻を守る。(早く始めない)早めに選手紹介等が終了したとしても、開始時刻が定刻となるようにTD、両チーム役員に開始までの時間を明確に伝える。

<試合中>

○ 得点の管理、時間の管理

- 6) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理（タイムアウト）は1試合を通して同一の基準で、公平かつ平等に競技規則に則って処理する。どちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 7) コート内のプレーヤーとボールから決して目を離さない。
- 8) 得点合図の後、決して2人の位置を交代しない。
- 9) バックスステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 10) 走りながら、あるいはプレーヤーに背を向けて方向指示やジェスチャーをしない。判定の後その直後の選手、ボールの動きを必ず確認し、次の行動へ移る。
- 11) ゴールレフェリーは、コート内に立たないことを基本とし、展開に応じて前後左右に移動する。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立つ。
- 13) CP 7名の状況で、GKとCPの交代の妨げにならないような位置取りを。

○ 判定の手順、ジェスチャー

- 14) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
- 15) 正しいジェスチャーを用い、余計なレフェリーのアクションやコミカルな動作は慎む。

○ 立ち居振る舞い

- 16) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察する事がないように。
- 17) コート上で腕組み、両手を腰に当てる、ポケットに手を入れる、休めの姿勢など論外。
- 18) 「穏やかに」判定を下し、全力で違反したプレーヤーやポイントへ駆け寄らない。

○ 役割分担

- 19) ピボットプレーヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。
- 20) ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定する。
- 21) 領域分担を明確にし、ペアのレフェリーの近くで起こっているプレーに対して、遠い位置から判定をしない。

○ 競技規則の正しい運用

- 22) 警告、退場を判定する際は、その理由をボディーランゲージで大きく示す。
- 23) 競技規則に則った「判断基準」のもとに判定を下す。「判断基準」をもとに説明ができる。
- 24) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

<試合終了後>

- 25) 公式記録用紙に正しく記入されているかどうか確認する。

資料8 【B級審判員の目標】チェックリスト

2020年版 B級公認審判員の目標 <チェックリスト>



◆ 試合前		チェック
1) 両レフェリー、TDが立ち会いのもとスケジュールを実施		<input type="checkbox"/>
2) メンバー表、登録証の確認		<input type="checkbox"/>
3) ユニホームの確認（濃淡はつきりした物：チーム同士、レフェリーウェアとチーム）		<input type="checkbox"/>
4) チーム役員のウェアの確認（相手チームのコートプレーヤーと重複していないか）		<input type="checkbox"/>
5) プレーヤーの装具は、規定に沿ったものかどうかを観察		<input type="checkbox"/>
6) ゴールやゴールネット、ボールの点検（事前に）		<input type="checkbox"/>
7) オフィシャルとの連携（業務の確認、機器操作・動作の確認）		<input type="checkbox"/>
◆ 試合開始前		チェック
8) 定刻でのスローオフ		<input type="checkbox"/>
◆ 試合中		チェック
得点の管理、時間の管理		
9) 得点の管理はできているか（得点のたびに確認しているか）		<input type="checkbox"/>
10) 時間の管理（タイムアウト）は競技規則に則って処理できているか		<input type="checkbox"/>
11) 時間の管理はできているか（目視による公示時計の動作確認）		<input type="checkbox"/>
走法と位置取り		
12) コート上の選手とボールから目を離していないか		<input type="checkbox"/>
13) 得点合図の後に、位置の交代をしていないか		<input type="checkbox"/>
14) ゴールレフェリーへの移動時：バックステップで移動していないか		<input type="checkbox"/>
15) 走りながら、あるいは選手に背を向けて方向指示やジェスチャーをしていないか		<input type="checkbox"/>
16) ゴールレフェリー時：同じ場所に立ち続いているか（展開に応じて前後左右に移動）		<input type="checkbox"/>
17) 7mスローの際のコートレフェリー：スローの利き腕側に立っているか		<input type="checkbox"/>
18) GK不在での攻撃（6人 or 7人）で、レフェリーの位置取りは交代の妨げとなっていないか		<input type="checkbox"/>
判定の手順、ジェスチャー		
19) ①笛 ②方向指示 ③（必要に応じ）ジェスチャーの判定の手順を守っているか		<input type="checkbox"/>
20) 正しいジェスチャーを用いているか		<input type="checkbox"/>
立ち居振る舞い		
21) ペアで同じ種類の笛を使用しているか		<input type="checkbox"/>
22) 笛を口にくわえたまま、観察していないか		<input type="checkbox"/>
23) コート上での立ち姿はどうか（ポケットに手を入れる、休めの姿勢になっていないか）		<input type="checkbox"/>
24) 「穏やかに」判定しているか（罰則を出しに行く、ポイントへ行く際、全力で駆け寄っていないか）		<input type="checkbox"/>
役割分担		
25) ピボットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか		<input type="checkbox"/>
26) ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定しているか		<input type="checkbox"/>
27) ペアでの領域分担は明確か（相方の近くで起きたプレーを、遠い位置から判定していないか）		<input type="checkbox"/>
競技規則の正しい運用		
28) 警告や退場を判定する際、その理由をボディーランゲージを用いて大きく示しているか		<input type="checkbox"/>
29) 競技規則に則った「判定基準」のもと、判定をしているか		<input type="checkbox"/>
30) 判定をする際、「判定基準」をもとに説明することができるか		<input type="checkbox"/>
31) 差し違えた場合、必ず ①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか		<input type="checkbox"/>
◆ 試合中終了後		チェック
32) 公式用紙に正しく記入されているかどうか確認したか		<input type="checkbox"/>

資料9 【競技規則運用に関するガイドライン】

競技規則運用に関するガイドライン（2019年7月1日 IHF 施行）を受けて（改訂）



2018年6月29日 IHFより送付

2018年7月7日 JHA常務理事会報告

2018年8月21日 IHFに確認後改訂

2020年2月1日 合同委員会報告

（公財）日本ハンドボール協会

競技・審判本部

IHF 競技規則審判委員会（以下、IHF-PRC）は、競技規則の専門家と共同で、ルール解釈において課題があつたいくつかの項目について議論を行つた。

その結果、特定の状況における正しい判定を明確にする意図で、下記の通り「競技規則運用に関するガイドライン」（2016年7月1日施行）を更新および追加をすることで合意した（第1回 IHF 改訂 2018年7月1日施行されている）。

なお、この第2回改訂を IHF では 2019年7月1日より施行している。

日本国内では、継続事項を除く新規および改訂事項に関しては **2020年4月1日より施行**とする。

競技終了前 30秒間

2016年版競技規則書より新設された、8:10c および 8:10d は、競技終了間際にスポーツマンシップに反する行為によって、違反したチームが試合に勝つことによって、ハンドボールにマイナスなイメージを与えないことを最大の目的としている。同時にこの競技規則は、違反されたことによって失われた攻撃のチャンスを保証し、観客にとっても競技終了までスリリングのある試合を楽しませることにある。先日、熊本で開催された 2019年女子世界選手権の決勝戦の場面が、その典型的な事象と言える。

競技規則 8:10c では競技終了間際に各種スローを違反行為によって実施させなかつた、または遅らせた場合は失格に加え、7mスローによって罰せられる。また競技規則 8:10d では、競技終了間際にボールがインプレー中にプレーヤーやチーム役員による失格相当の違反行為が行われた場合、失格に加え、7mスローによって罰せられるとなつてゐる。

競技規則 8:10c は、2016 年制定当初、競技の中断中に防御側プレーヤーが相手のスローの実施を妨げたまたは遅らせた場合に適用されていた（例：各種スローに対して、3 m より近い位置でスローをブロックした場合は適用していなかった）。しかしこの適用方法では、レフェリーやプレーヤー、その他ハンドボール関係者を誤った解釈に導き、例え上記例のような明らかなスポーツマンシップに反する行為があったとしても、違反をしたチームが試合に勝つ可能性を有することになるなど、悪いイメージを払拭できないこととなった。

以上の理由で、IHF は IHF-PRC と指導技術委員会 (CCM) で「ハンドボールの競技とルールの発展を目指したワーキンググループ (GRDWG)」および「新競技規則に向けてのワーキンググループ (NRWG)」を結成し、2018 年より現行のガイドライン「3 m の距離を確保しないとき (8:10c)」を追加することにした。3 m の距離を確保せず、スローを行おうとしたプレーヤーに対して不当行為を行った場合でも、失格および 7 m スローの判定をするということになる。

その他の項目においても、現行のガイドラインの更新および新ガイドラインを設定する。

<2018 - ガイドラインの更新：継続>

“3 m の距離を確保しない”とき (8:10c)

競技終了前 30 秒間で各種スローの実施時に相手が 3 m の距離を保とうとせず、スローができなかつた場合、失格および 7 m スローを判定する。

この解釈は競技終了前 30 秒間であっても、あるいは終了合図と同時 (2:4 の第 1 段落) であっても適用することを意味する。つまり、(延長戦を含めた) 後半の競技終了合図までであり、競技終了合図のあとに行われる最後の一投については適用しない（違反の場合は通常の2分間退場とし、再度、最後の一投を実施するということになる）。この状況におけるレフェリーの判定は (17:11 における) 事実判定である。

競技終了前 30 秒間で各種スローに直接関連しない違反で各種スローができず試合が中断した場合（例：不正交代、交代地域でのスポーツマンシップに反する行為での違反など）、競技規則 8:10c を適用する。

もし、各種スローの実施の際に、3 m より近い位置にいる相手プレーヤーが、例えばブロックするなどによりスローの結果やスローの実施を積極的に妨害した場合、競技規則 8:10c を適用する。ゴールキーパースローの際、ゴールキーパーが投げたボールが、ゴールエリアラインを完全に通過しない状況で妨害した (12:2) 際も同様に適用する。

3 m より近い位置にいるが、スローの実施を積極的に妨害しなかつた場合は罰則を適用しない。各種スローの実施の際、3 m より近い位置にいて、シュートをブロックしたり、パスをインターセプトしたりした場合も競技規則 8:10c を適用する。

<2019 - 新ガイドライン：2020年4月1日より施行>

終了合図後のフリースローの実施に関する防衛側チームのプレーヤーの交代（2:5）

いわゆるノータイムのフリースローについて、もし防衛側チームのゴールキーパーがこのノータイムのフリースローにつながる防衛動作の中で負傷したのであれば、ゴールキーパーの交代を認めることとする。この交代は、ゴールキーパーのみへの適用である（防衛側チームのコートプレーヤーには適用しない）。

<2019 - 新ガイドライン：2020年4月1日より施行>

終了合図後のフリースローの実施（2:6, 8:10c）

いわゆるノータイムのフリースローや 7 m スローの実施の最中に、防衛側チームによる違反やスポーツマンシップに反する行為があったならば、該当するプレーヤーに対し競技規則 16:3, 16:6 または 16:9 に基づき罰則を適用し、攻撃側に再度スローを行わせる（15:9 第 3 段落）。この場合、競技規則 8:10c（競技終了前 30 秒間）は適用されない。

<2019 - 新ガイドライン：2020年4月1日より施行>

予備のボールの使用（3:3）

IHF, 大陸大会, 国内大会に限らず全ての大会において、予備のボールをオフィシャル席のみならず、コートサイド（各コーナー付近）に置き、それらを使用することを許可する。ただし、この予備のボールを使用するかどうかは、競技規則 3:4 に基づき、レフェリーが決定する。

<2019 - 新ガイドライン：2020年4月1日より施行>

パソコンやタブレット端末等の技術的器具の使用について（4:7 ~ 4:9）

IHF, 大陸連盟, 各国協会は、交代地域でのパソコンやタブレット端末等の技術的器具の使用を許可する権利を有する。ただし使用するにあたり、戦術指示を目的として、公正に使用しなければならず、罰則により競技場を去ったプレーヤーやチーム役員との交信は許されない。また、レフェリーの事実判定についての質問等の道具として使用することは許可されない。

<2018 - ガイドラインの更新：継続>

負傷したプレーヤーの救護 (4:11)

衝突などにより同じチームの複数のプレーヤーが負傷した場合には、レフェリー・TD はこれらの負傷したプレーヤーを救護するために、規定人数より多くコートに入る許可を与えるても良い。この場合、1 人のプレーヤーに対し最大 2 名までとする。レフェリー・TD は、許可されてコートに入った者を監視する必要がある。

<2018 - 新ガイドライン：継続>

パッシブプレーにおけるパスのカウント (7:11, 競技規則解釈 4, 付録 3 の例 13・14)

シュートがブロックされ、ボールが再びシュートしたプレーヤーやチームメイトに戻ってきた場合は、1 回のパスとしてカウントする。

<2018 - 新ガイドライン>

<2019 - ガイドラインの更新：2020年4月1日より施行>

競技規則 8:5 注に関連したゴールキーパーの失格

これは、ゴールキーパーがゴールエリアから、またはゴールエリア付近からプレーイングエリアで相手と正面衝突をした時に適用される。**ただし以下の場合は、適用されない。**

- a) 交代地域からコートに入り、相手と同じ方向に向かって走っている場合
- b) 攻撃側プレーヤーがボールを後方から追っている、ボールは前方にいるゴールキーパーと攻撃側プレーヤーの間にいる（つまり、攻撃側プレーヤーは前方にいるゴールキーパーを認知できている）場合

これらの状況においてレフェリーは、事実観察や判断に基づき、判定する。

（交代地域からコートに入り相手と接触した場合、競技規則 8:5 注以外の理由で失格を判定される場合もある）

<2018 - 新ガイドライン：継続>

無人のゴールと 7 m スローの判定 (14:1, 競技規則解釈 6c)

競技規則解釈 6c では、ゴールキーパーがゴールエリアを離れていて、そこでボールと身体をコントロールした相手が無人のゴールにボールを投げるという、誰にも阻止できない明らかなチャンスを得たときに 7 m スローを与えると定義されている。これは、ボールを持ったプレーヤーは、明らかに無人のゴールに向かって直接シュートを狙おうとしていることが前提となる。

明らかな得点チャンスの定義には、違反の種類やインプレー中かどうかにかかわらず、スローを行うプレーヤーまたはチームメイトが正しい位置にいることも含まれる。

<2018 - 新ガイドライン： 繼続>

ビデオ判定を導入する場合

ビデオ判定の導入によって得点かどうかの判定が必要な場合、得点の取り消しは現行では次のスローインまで (9:2) となっているが、より長い時間が必要となる。その期限を、次のスローインまでではなく、スローインのあと、次のボール所持が変わるまでとする。

<2018 - 新ガイドライン： 繼続>

プレーヤーが異なった色や番号でコートに入った場合 (4:7, 4:8)

競技規則 4:7 および 4:8 に関する違反については、ボールの所持を変更しない。これは競技を中断させ、間違いを正すだけでよく、中断された時点でボールを所持していたチームによって競技は再開される。

<2019 - 新ガイドライン： 2020年4月1日より施行>

失格となったプレーヤーによる、競技再開前の極めてスポーツマンシップに反する行為について (16:9d)

(直接または 3 回目の退場による) 失格を判定されたプレーヤーが、競技再開前に競技規則 8:10a に該当するような極めてスポーツマンシップに反する行為をした場合、そのプレーヤーに対して報告書を伴う失格を追加する。この場合、チームはコート上のプレーヤーを、4 分間減らさなければならない。

<2019 - 新ガイドライン： 国内ではすでに施行されている>

ゴールの固定について (1:2)

事故防止を目的に、ゴールは床またはゴール後方の壁面にしっかりと固定する、あるいは他の方法を取り入れる等、転倒防止のための処置をしなければならない。

※ 本ガイドライン内の朱書き部分が、今回の追加・更新の箇所となります。

【評価のポイント】 心技体を総合評価
(平成29年度よりB級審査においても体力試験を実施する)

1. 人間性：礼儀や態度(競技規則筆記試験の結果も真面目かどうかを反映)

- ・コート上でのおだやかな振る舞いと、毅然としたボディーランゲージ
- ・大会の構成員としてのレフェリーグループ、仲間、チームとは？

2. 技術：レフェリーの仕事の目的は？

- ① **首尾一貫性**：最初の5分間とは？
 - ・競技開始の直後でも、**即座に2分間退場**・レッドカードを出せる**準備**
 - ・プレー（特に相手に対する動作）に対して、**明確な基準を知らせる**
 - ・**Prevent Action（これ以上はさせない、予防的な動作）**
- ② **笛の音色**：プレーヤーや観衆にとって重要。目が不自由な観衆も存在する。
 - ・スピーディーなハンドボールを演出するために判定のジェスチャーより大切
 - ・強弱長短を使って表現
- ③ **プレー評価**：特にナイスディフェンスにより惹起されたオフェンスのミス
 - ・**防御側の権利の保障。ルールは「攻撃側」「防御側」に平等に存在する。**
 - ・**安易に「攻撃側」有利な、フリースローハンドボールにしていいか。**
- ④ **罰則の適用**：相手に対する動作とスポーツマンシップに反する行為
 - ・**危険につながる行為(注意・YC)を見極め、危険行為(結果的に相手の安全を軽視する行為=2分間退場、RC)を排除。**
 - ・**Prevent Action（これ以上はさせない、予防的な動作）**
 - ・真の教育的配慮とは？
 - ・競技の本質を根底から覆すような行為（**シミュレーション、目隠し、ウイングポジションにおける防御側のロングステップ等**）を排除
- ⑤ **位置取り・立ち居振る舞いと任務分担**：審査急造ペアでも常識的な範囲で
 - ・セット攻撃時の姿勢と観察位置=**攻防の「間=ボール」を観察できる位置を速攻（リスタート、ターンオーバー）時の走路・走法と観察位置→特に重要！**
 - ・正しいジェスチャー（オリジナリティは不要）
 - ・任務分担の考え方（ボールの有無、**ゴールエリア際、ピボットの観察**）
- ⑥ ミス：基準ではない（ミスはあくまでミス）
 - ・Small PotatoesとBig Potatoes
 - ・大きなミスをしないためのゲームコンディション

3. 体力：日頃のトレーニングの成果を！仲間意識をもって励まし合いながら！

【上達のために】 審査結果の如何にかかわらず

審判員の倫理綱領（競技・審判ハンドブック）に従えば自ずと道標は…

審判員の倫理綱領

レフェリングは、競技中の判定はもとより、
ハンドボール競技の進歩・発展に寄与するものであり、
レフェリーは責任の重大性を認識し、
ハンドボール競技への情熱を基に、すべての人に奉仕するものである。

1. レフェリーは生涯学習の精神を持ち、常にハンドボール競技の正しい理解とレフェリング技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす。
2. レフェリーは任務の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を磨くよう心掛ける。
3. レフェリーはプレーヤーや監督の人格を尊重し、あたたかい心で接するとともに、レフェリング内容について理解と信頼を得るように努める。
4. レフェリーは互いに尊敬し、ハンドボール競技関係者と協力してレフェリングに最善を尽くす。
5. レフェリーはレフェリングの公平性を重んじ、レフェリングを通じてハンドボール界の発展に尽くすとともに、競技規則・諸規程の遵守および秩序の形成に努める。
6. レフェリーはレフェリング活動にあたって、営利を目的としない。

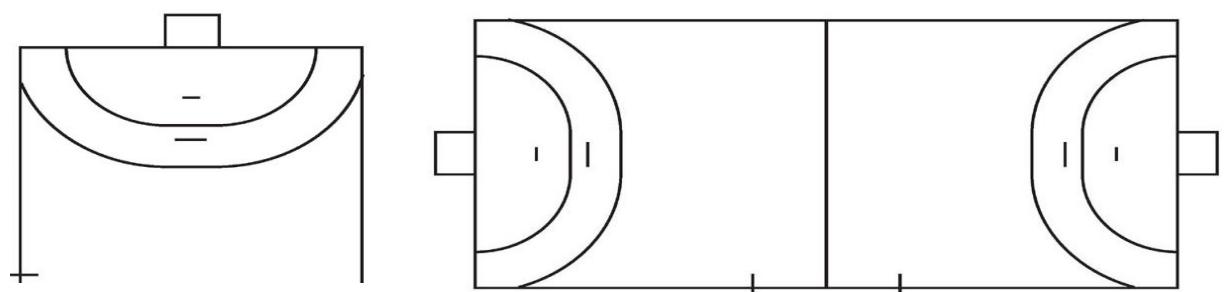
(公財) 日本ハンドボール協会
競技・審判本部

※ 競技・審判ハンドブック 2019 - 2020 より

資料12 【レフェリー評価票（2020 審査会用）】

レ フ ェ リ 一 評 価 票 [2020年度審査会用]						
氏 名			所属	期 日	年 月 日	
審 査 会 名			A級・B級	会 場		
評 価 者	印	対戦	vs		男・女	結果
総 合 的 な 評 価						
レフェリーの総合評価は	<input type="checkbox"/> とても良い <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 概ね良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> ほぼ適切 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分					
このゲームは（難易度）	<input type="checkbox"/> とても難しい <input type="checkbox"/> 難しい <input type="checkbox"/> やや難しい <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 簡単					
なぜ難しかったか	<input type="checkbox"/> 結果・得点経過 <input type="checkbox"/> ベンチの振る舞い <input type="checkbox"/> 観客の影響 <input type="checkbox"/> スピード <input type="checkbox"/> 戦術 <input type="checkbox"/> 違反行為 <input type="checkbox"/> その他（下欄に具体的に記入）					
項 目 ご と の 評 価	と て も 良 い	良 い	適 切	不 十 分	コ メ ン ト (優れている点・改善すべき点など)	
(1)ゲーム管理	レフェリーとしての要素・全体的印象 振る舞い・選手:役員とのコミュニケーション チームとの関係・平等であるか					
(2)連携						
(3)ゲームの理解						
(4)1対1の局面	罰則 チームに基準が理解されているか ハリウッドアクションの見極め					
(5)攻撃側の違反						
(6)7mスロー						
(7)違反	ステップ・ダブルドリブルなど 足を使った違反 フリースロー・スローオフなど					
(8)時間の管理						
(9)動き						
位置取り	動きと位置取り 明確なジェスチャー・笛の音 体力・走力					
ジェスチャー						
レフェリーへのアドバイス						
特記事項など						

(ウラ面)



レフェリー評価票の記入方法



(公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判本部

現在国内で使用している「レフェリー評価票」は、IHFで使用しているものと同様である。2016年2月、香港にて行われたAHFチーフレフェリー・TDセミナーにおいて、その記入の仕方について、下記の通り具体的に説明がなされた。国内の上級審判員審査会および、全日本大会審判員評価においても、この評価票を使用し、審判員へのフィードバックおよび指導に役立てていく。

1 「レフェリーの総合評価」

7段階で評価する。以下にその基準を示す。

評価項目の（1）～（3）は、審判員としての基本姿勢に関わる大切な項目である。全日本大会審判員（A級・B級）評価においては、（1）～（3）の項目において「適切」以上の評価がつくことが条件となる。また、**A級審査においては、（1）～（3）の項目において「良い」が2つ以上つくことが条件**となる。

（1）とてもよい・・・・・トップレフェリー、指名レフェリーに求められる

- レフェリーの判定ミスがほとんどなく、ゲームに影響を与えていない。
- 基準がとても明確で理解しやすい。
- ペア間でのバランスがよい。
- **素晴らしいゲーム運営がなされており、明らかにレフェリーが受け入れられている。**

（2）良い・・・・・A級審判員の合格ライン（2017年改訂）

- レフェリーの判定ミスが少ししかなく、ゲームに影響を与えていない。
- 基準が理解しやすい。
- **すべての項目において、「不十分」の評価がつかないこと**
- **（1）～（3）の項目において、「良い」の評価が2つ以上つくこと**
- **（4）～（9）の項目において、「良い」の評価が3つ以上つくこと**
- 適切なゲーム運営がなされており、レフェリーは概ね受け入れられている。

（3）概ね良い・・・・・レフェリーコースの合格ライン（2017年改訂）

- レフェリーの判定ミスが少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
- 基準にややぶれがあるが概ね理解しやすい。
- レフェリングの「評価項目」（4）～（9）の中で、不十分な項目が**1つ**しかない。
(例：（4）1対1の局面：罰則 等)
- **「項目ごとの評価」（1）～（3）において「適切」以上の評価がつく。**

（4）適切・・・・・全日本大会審判員・B級審判員の合格ライン

- レフェリーの判定ミスは少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
- 基準にぶれがあるものの、ゲームに影響を与えていない。
- レフェリングの「評価項目」（4）～（9）の中で、不十分な項目が**2つ**ある。
(例：（4）1対1の局面：罰則、（7）違反：ステップ 等)
- **「項目ごとの評価」（1）～（3）において「適切」以上の評価がつく。**

(5) ほぼ適切

- レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。
(例：点差の開いた試合 等)
- **基準のぶれが大きく、一貫していない。**
- レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、不十分な項目がいくつかある。
(例：罰則、ステップ、攻撃側の違反 等)
- 「項目ごとの評価」(1)～(3)において「適切」以上の評価がつく。

(6) やや不十分

- レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。
(例：点差の開いた試合 等)
- 基準のぶれが大きく、一貫していない。
- レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、不十分な項目がいくつかある。
(例：罰則、ステップ、攻撃側の違反 等)
- 「項目ごとの評価」(1)～(3)において「不十分」の評価がつく。

(7) 不十分・・・・・初心者、未経験のレフェリー

- レフェリーの判定ミスが多い。
- **多くの判定ミスが明らかに試合結果に影響を与えていている。**
- **基準のぶれがとても大きい。**
- レフェリーの勝手な判断が、ゲームに影響を与えてている。
- **レフェリーはゲームを理解していない。**
- **明らかにレフェリーがゲームをコントロールできていない。**

2 「項目ごとの評価」4段階

(1) とても良い

- 申し分がなく、判定ミスがほとんどない。

(2) 良い

- 概ね満足できる、基準のぶれが少なく、チームにも受け入れられている。

(3) 適切

- 判定ミスがあり、改善は必要であるが、基準のぶれは少なく、チームにも受け入れられている。

(4) 不十分

- 判定ミスが多く、基準が受け入れられない。改善を要する。

3 「コメント」

- ◆ 別紙「レフェリー評価に関する着眼点」を参考に、レフェリーに対して今後改善を要する点について具体的に記載する。
- ◆ 上級審査会においては、審査に合格・不合格した理由について具体的な記載があるとよい。レフェリーにとって今後何を努力していくべきなのか明確にし、指導・および評価の一体化を図る。
- ◆ 評価票裏面については、審査の際メモとして使用する程度で活用し、必要に応じて指導に役立てる。

例)

項目ごとの評価		とても良い	良い	適切	不十分	コメント (優れている点・改善すべき点など)
(6) 7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め					十分に身体をコントロールして打ったものに与えている
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め			○		
	ボールを所持していない明らかなチャンス					

4 「ゲームの難易度」

- 試合全体を客観的に観察して、難易度がどうであったかをチェックする。
- 「とても難しい」「難しい」「やや難しい」についてはその理由としてあてはまる項目をチェックする（複数可）。
- 「レフェリーがゲームの流れを作った」は意図的な介入があったと疑われる場合にチェックする。

資料14 【レフェリー評価における着眼点 2020】

朱書：2020年重要ポイント

項目	着眼点
(1) ゲーム管理	レフェリーとしての要素・全体的印象
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション
	チームとの関係・平等であるか
(2) 連携	チームワーク(オフィシャルを含めて)
	ペアで均一な判定
	領域分担
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準
	アドバンテージ・不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング
(4) 1対1の局面	罰則 8:4にある即座に2分間退場への準備
	チームに基準が理解されているか
	ハリウッドアクションの見極め
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反
	ボールを持たないプレーヤーの違反
	正しいブロック/不正なブロック
(6) 7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め ゴールエリアへの侵入と影響の見極め
	ボールを所持していない明らかなチャンス
	防衛側プレーヤーとの位置関係から、明らかな得点チャンスを見極め、適切に7mスローを与えていたか。明らかな得点チャンスではないのにもかかわらず7mスローを与えていたか。
(7) 違反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート 足を使った違反
	フリースロー・スローオフなど
	各種スローが正しく実施されているか。3mの距離を観察できているか。修正後の処置は適切か。
(8) 時間の管理	パッシブプレーの予告図のタイミング
	パッシブプレーの判定
	的確なタイムアウト・不必要な中断をしない
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか
	明確なジェスチャー・笛の音
	体力・走力

資料15 【テーマ別グループ討議 MEMO】

判断基準を基に、判定の根拠を適切に説明できることを目指す

【映像クリップのテーマ】

- ① 罰則の適用（ボディーランゲージ等のインフォメーションの仕方も含む）
- ② 7mスロー（罰則の有無も含む）
- ③ オフェンシブファール（攻撃側の違反）

MEMO

＜正しい判定は？ その判定の判断基準（根拠）は？ どう説明したらしいの？＞

参 考 資 料



- ◆ 通信機器の活用
- ◆ リオデジャネイロオリンピックゲームの総括

※ その他詳細は、

『競技・審判ハンドブック 2019 - 2020』を活用してください

参考資料1 【通信機器の活用】プレゼン資料



通信機器の活用について

(公財)日本ハンドボール協会
審判委員会委員長 福島亮一

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用

① 得点の確認

▶ (スローインの後) 「○対○」
… コートレフェリーから、ペアおよびTDに

② 罰則の確認

▶ 10分、20分などの節目に合わせて

警告
熊本 7. 12
愛知 3. 9 ね

熊本 3 番
退場 2 回目ね

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用

研修課題

③ ボールがないところの違反行為

▶ (ゴールレフェリー)
「ポスト、つかみ合ってるから上からお願い」

(コートレフェリー)
口頭やジェスチャーでのコンタクトを取る

④ パッシブプレーの予告

▶ 「挙げるよ！ はい！」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用

⑤ 罰則の適用

▶ (ペアの領域にいるプレーヤーに対して)
「6番、イエロー（退場）ね」

⑥ アドバンテージ、中断のタイミング

▶ 「この後、8番イエロー出すよ」

▶ 「相手ボールになったら（負傷者対応で）
止めるよ」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用

⑦ 基準合わせ

▶ 「今のどう見えた？」
「罰則でOK？」
「パッシブのタイミングどう？ 早い？」

⑧ オフ・ザ・ボールでのプレーヤーの動き

▶ 「サイドから、入ってくるよ」
▶ 「ポスト、ブロック狙っているよ」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用

⑨ コートレフェリー（自分）の領域から
ペアの領域になった場合

▶ 「任せた！」
… 決して自分は吹かない

▶ 「ここは自分が判断するね」

速攻時
相方の
目の前
ゴール
エリア際

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用（TDとの連携）

⑩ 罰則を適用する際

- ▶ 対象となるプレーヤーの番号の伝達

2番、警告です

退場は、5番です



⑪ 負傷したプレーヤーへの対応

- ▶ 治療行為や担架の要請
- ▶ 3回分の攻撃に参加できないことの伝達

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用

⑫ ポジションを変えるタイミング

- ▶ 「場所変わろう」
- ▶ 「攻撃が変わったら、逆側に行くね」



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用（TDとの連携）

⑬ 終了間際（時間の管理）

- ▶ 残り時間とカウントダウン

残り
5分、3分、1分
30秒 ...

10、9、8、...
3、2、1、終了



⑭ チームタイムアウト

- ▶ 「タイムアウト出るよ」



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用（TDとの連携）

⑮ 交代地域の管理

- ▶ ゴールキーパーなしでの攻撃
...「ゴールキーパーなしね」「ゴールキーパー戻ったよ」
- ▶ 「退場者戻るよ」
- ▶ コーチングゾーンを越えての指示
...TD、ベンチ側のレフェリーから注意
- ▶ 「交代地域からカットを狙っているよ」



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

まとめ

共同作業

（レフェリー間、レフェリーとTD間）

通信機器を使用していたとしても、
誰が見ても明確にコンタクトを取っている
姿を！

→ 安心感につながる

ただし、表情は注意！！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

参考資料2 【リオデジャネイロオリンピックゲームの総括】



2016年リオデジャネイロオリンピックゲームの総括

2016年9月16日 Ramon Gallego
(IHF PRC)

2016年12月10日現在
競技規則研究専門委員会

はじめに

以下の内容は、リオオリンピックでテクニカルミーティング等で話題にした点である。
この内容は次からのIHF大会の基本となる。自国、大陸で活用し、この話題を各国のチームやレフェリーに共有することを望んでいる。

1. 6枚のイエローカードを示す必要はもはやない

- (a) イエローカードの使用は、レフェリーが許容範囲を確立するための「道具」であり、「管理的に」チームに対して最大数3枚を使い切ることは良いとは言えない。
- (b) 明らかに即座に2分間退場を判定すべき場面でイエローカードを示しているレフェリーがいる。

2. 後半にイエローカードは使用しない

前項と関連し、後半にイエローカードを使うことは、その「道具」の使い道としては適切でない為、避けるべきである。

3. GKなしでの攻撃(6人or7人)の際のコートレフェリーの位置

コートレフェリーから反対のコート(のゴールレフェリー)に戻る際、最も良い走路はベンチと反対側である。このような位置を取れば、素早い選手交代を妨害することは避けられる。レフェリーは、もしも逆の位置を取っている場合には、位置を交代できる機会を流れの中から見つけなければならない。

4. GKなしの攻撃を始めたときは、TDがレフェリーに注意を促す

IHFのTKやIHFオフィシャルが、ヘッドセットを使用し攻撃チームがGKを下げていることに注意を促すことで、レフェリーがその状況に気付き適切な判定(空のゴールすなわち明らかな得点のチャンスである)をすることを助けることが出来る。「ゴールキーパーがない」「ゴールキーパーはコート外」等、短い文章で伝達する。

5. プレーヤーがボールを得、自陣の 6m ライン付近からGK不在のゴールにシュートを試みた際の 7m スローの判定

競技規則解釈 6(c)に規定されているように、GK 不在の状況は、相手チームのプレーヤーがそのゴールに直接シュートする機会を得ることができるので、明らかな得点チャンスとして見なされる。以下の 2 つの状況が一致した時には、ゴールから距離に関係なく 7m スローとなる。

- ① ボールを持ったプレーヤーがゴールに向かってシュートを試みている。
- ② 相手プレーヤーが違反によってこのチャンスを妨害する。

反対に、もしプレーヤーがドリブルをしたり、他のプレーヤーにパスをするなど、GK 不在のゴールへのシュートを試みていない場合はGK不在の状況で相手の違反があったとしても 7m スローは判定しない。

6. 罰則を与えるよりも、ジェスチャーやボディーランゲージを用いながら許容範囲を示すこと～求められるレフェリーの人間性～

許容範囲をチームへうまく伝えていくことが、ただ罰則を与えて示すことよりもはるかに効果的である。もちろん、選手が許容範囲を超える行為を行えば罰則を与えるべきである。また、罰則が必要である理由を説明するためにジェスチャーを用いるべきである。許容範囲を的確に伝えるために、レフェリーには確固とした人間性が必要となる。

7. 試合開始直後から、IHF 審判委員会発行の判断基準をもとにピボットゾーンのコントロールをする

これは過去の大会においても課題となる点であり、レフェリーがゲームコントロールを的確に行っていく上での重要な要素の一つである。ピボットプレーヤーを長時間つかみ続けたり、シャツをつかんだり、引き倒すなどの行為は、許されない典型的な行為である。レフェリーが早く対処すればするほど、このようなディフェンスプレーヤーの違反行為をなくし、うまくゲームがコントロールできる。

8. IHFのTK(SKとオフィシャルと連携して)は試合前のウォーミングアップ中に選手の装具を確認しなければならない

ルールで許されていない装具を身につけているプレーヤーへの対応により、競技の進行を遅らせることがないようにしなければならない。足首や膝、肘のサポーター（固い素材、プラスチック、金属製であれば禁止）、ヘアピン、身体に身に付けるあらゆる金属製のもの、禁止された場所への松やに、シャツやサイクリングパンツの袖の長さや色などが含まれる。

レフェリーも協力するべきであり、もし発見した場合は IHF オフィシャルに通知し、適切に対処しなければならない。

9. チームタイムアウトの時間に厳しく

レフェリーと TD は 1 分間のチームタイムアウトが終了した後、すみやかに競技を再開する責任がある。50 秒の合図が知られたとき、レフェリーと TD は各チームのミーティングを終了させ、競技を再開するための位置につかせなければならない。

10. 原則として、ベンチの管理は TD の職務である。しかし、直接的な抗議や事象においてはレフェリーがチーム役員や交代地域にいるプレーヤーに対し直接罰則を与えることも可能である

IHF のタイムキーパー、スコアラー、オフィシャルにより、チーム役員または交代地域にいる選手によるスポーツマンシップに反する行為に対し、罰則を与えるよう依頼された場合、レフェリーはその指示に従わなければならない。

11. リザーブのレフェリーはその試合における通信機器の管理をする

リザーブレフェリーの職務に、各試合における全ての通信機器の準備および回収することを含む（5つの通信機器、2人のレフェリー、1人のオフィシャル、1人のタイムキーパー、1人のスコアラー）。

12. <新傾向> 7m スローを行う選手が、ボールを床にバウンドさせたり、ゆっくりとした動きをしたり、またはコートの中央に位置を取るなどして、スローを行うことを遅らせる傾向がある

上記のような新しい傾向の行為は行わせてはならない。また、レフェリーは競技を遅延させないよう、スローを行おうとしている選手の行動に注意し、速やかに行わせなければならない。
また、繰り返し行われる遅延行為に対しては、その選手に対して段階的罰則を適用する。

13. コートを拭くためのタイムアウトは可能な限り減らし、できるだけ素早く行わせる

不当な理由のための時間の浪費を避ける。レフェリーはプレーヤーから床を拭いて欲しいというリクエストを全て受け入れる必要はない。いくつかのケースとして床が濡れた場所が、その後の競技の進行に直接影響を与えるものではない場合、中断をせず、その後攻撃が変わった後に拭くことができる。また、プレーヤーが、中断中に自分に有利になるよう、位置を変えたり呼吸を整える目的でレフェリーにタイムアウト要求することがある。

14. 負傷したプレーヤーへの対応

～ジェスチャー16を示す前に救助を必要とするかプレーヤーに直接尋ねる～

一方のレフェリーが、タイムアウトの後ジェスチャー16（交代地域より2名の入場許可）を行うと、負傷したプレーヤーは3回の攻撃終了を待たなければならない。したがって、プレーヤーのために、すぐに立ち上がり競技を続けることができるかどうか、あるいはコートの外で治療が必要かどうかを最初に尋ねる。

負傷が明らかであるならば、この行動は必要ない。

レフェリーは、タイムアウトの後に、ジェスチャー16の指示が遅れないように、あるいは、あわててゲームを再開させてはならない。このルールの基本精神は、競技の円滑な進行のためであり、プレーヤーがレフェリーからの救護の指示があるまで、コート上で長い時間倒れたままでいることを許すという意味ではない。

15. 怪我をしたプレーヤーや、ケガではないプレーヤーがコート上に倒れていても、速攻やクイックスローオフを中断させてはならない

攻撃側や防御側を問わず、プレーヤーがコート上に倒れた状態で、クイックスローオフや速攻がレフェリーのタイムアウトの判定により中断させてはならない。得点チャンスが消滅するまでレフェリーはその攻撃を認める。速攻が終了した段階で、まだプレーヤーがコート上に倒れた状態であれば、タイムアウトをとり救護を要求することができる。しかし、明らかな得点チャンスの時や明らかなチャンスにつながる可能性がある場面では、タイムアウトを判定してはならない。

16. パッシブプレー～レフェリーは通信機器を用い、パスをカウントする～

両レフェリー間でパスのカウントのミスを避けるために、一方のレフェリーが、（コートレフェリーが望ましい）通信機器により、もう一方のレフェリーに聞こえるようにパスの回数をカウントする。

ペア間でこのカウントの方法が一番重要であるが、レフェリー間で方法を確立すること。指を用いて挙げて、パスの数を示す必要はない。

17. コート上に引かれた新しいライン

写真（下記参照）のようにキーパーの前にある小さな印は、競技規則内で指定されていない余計なラインである。このラインはゴールの中心を捉えており、明らかにキーパーのポジショニングに有利となるものである。そのためレフェリーは、その存在に注意を払わなければならない。

18. キャッチネット

ゴールのキャッチネットは、束ねておくことはできない（ネットはゴールイン後のボールのリバウンドを防ぐものであり、IHF が主催する大会には必須のものである）。

これは、競技規則内に記載がないものの、ゴールキーパーに対する注意事項である。

19. 黒色の笛

IHF 大会ではレフェリーは、黒色の笛を使用すべきである（カーニバルではない）。

20. チーム役員に対する失格の判定

チーム役員に対する失格において、全てではなくとも、同じ認識を持っていると考えられる。しかし、新ルールに関するワーキンググループ（IHF New Rules Working Group）は、正式な見解を通達として出すため、リオとドーハにおいて会議を行った。

まずここで重要なことは、2016 年より施行となった競技規則は、チーム役員に関する条項に関して変更はしていないということである。2016 年の競技規則は、2010 年に施行されたルールを基本としており、「ブルーカード」という新しい表現方法を追加しただけである。

競技規則 16 の 6c における失格は、プレーヤーの 3 回目の退場に伴う失格（16 の 6d）と同様の失格である。これは通常の失格であるが、8 の 6 や 8 の 10 のような振る舞いをした場合、報告書を伴う失格（レッドカードをあげた後にブルーカードをあげる）とすべきである。

また、チーム役員に対する失格において、8 の 9 と 8 の 10 の違いは重要となる。これは、通常の失格なのか、あるいは報告書を伴う失格なのかをレフェリーが判定するための判断要素となる。

< 17 に関連 >



MEMO

